

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

November  
2021

11

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2021年11月1日発行(毎月一回発行)第767号

● 出会い・本・人

「見えない線」を求めて 島田由紀

● 特集 民主主義を学ぶなら

この三冊! 柳父園近

● 本・批評と紹介

N・T・ライト著／浅野淳博訳

N・T・ライト新約聖書講解9

すべての人のためのローマ書1 1-8章 鎌野直人

船本弘毅著 聖書に聴く「人生の苦難と希望」 高橋貞二郎

小原 信著 十四歳からの読書ナビ 柴崎 聰

ビリー・ジーン・コリンズ 著／

アダ・ダガー・コヘン 日本語版監修／山本 孟訳

ヒッタイトの歴史と文化 石川 立

上智大学中世思想研究所編 「原罪論」の形成と展開 田中 裕

関田寛雄著 目はかすまず気力は失せず 沢 知恵

ジャン・カルヴァン 著／堀江知己訳

新約聖書註解Ⅻ テモテ・テトス・フィレモン書 飯田 仰

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代Ⅲ 阿部仲麻呂

近刊情報

書店案内

# 旧約聖書と教会

今、旧約聖書を読み解く 小友 聡著

私たちはどのように、  
旧約の思想を受け継ぐか

## 旧約聖書と教会

今、旧約聖書を読み解く

小友 聡



教文館

試練と摂理、神の時、反応報  
主義……イスラエルの危機  
的時代に生まれた思想に、  
先の見えない現代を生きる  
ヒントを探る。また、礼拝や  
聖餐などの旧約的コンテキス  
トを辿り、現代の教会が旧  
約的伝統を受け継いで歩む  
意義を解き明かす、示唆に  
富む論考集。

● 四六判・並製・208頁・定価2,200円

史的イエス研究の  
新たな視座

## イエスの「神の国」のイメージ

ユダヤ主義キリスト教への影響史

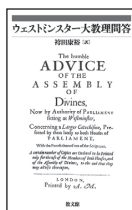
来るべき「神の国」を宣傳伝えるイエスが紡ぎ出していた、初期ユダヤ教の黙示思想を背景とする「神の国」のイメージ・ネットワークとは何だったのか？ 史的イエス研究の新たな視座を提示する著者最新の論考集！

● 四六判・上製・360頁・定価4,950円

大貫 隆 著

## ウェストミンスター大教理問答

袴田康裕 訳



好評発売中！

## ウェストミンスター小教理問答

袴田康裕 訳



厳密な教理と深い敬虔が一体化したピューリタンの靈性の結実として、時代・地域を超えて愛されてきたカテキズムの最新の翻訳。

● 新書判・並製・64頁・定価880円

● 新書判・並製・152頁・定価1,540円

17世紀以来、世界の長老教会、福音主義教会において、教会の信仰規準、また教理教育の手段として用いられてきた『ウェストミンスター大教理問答』。今日のキリスト者の靈性を養う最良の手引き。





# 「見えない線」を求めて

島田由紀

大学生のころ、仲間と共にヴァイオリン職人の方の工房に入り浸った。出入りする演奏家のお話をうかがったり、お弟子さんが作った楽器の音出しで粗い木の音が艶やかな楽器の音へと変化するのに驚かされたりした。あるとき、昔の名器の製図を見せていただいた。美しい楽器の曲線は、楽器の外側に引かれた直線の黄金比分割により浮かび上がっていた。「美しい楽器には、それを支える見えない線がある」。後年、美術館で名画を前に音声ガイドに従って点と点を結ぶ線を思い描いていたところ、平面に見えていた絵画が急に立体的に躍動し、驚いた。

信仰においても、「見えない線」が与えられてきた。

大学生のころ初めて聖書を読んで、旧約聖書と新約聖書のつながりがまったくわからなかった。あるとき、囚われのイスラエルを憐れみ、私は下つていき救い出す」と言われモーセを遣わされた出エジプト記三章の神が、ルカ二章で御子を低きに遣わされた恵みと憐れみの神と同じ神であると知らされ、私に

とって初めて旧約聖書と新約聖書のあいだにがっちり線が引かれた。その後は読むごとに旧約・新約聖書のあいだに新たな線が引かれ、もはや両者は離れることなく、多くの線で結び合わされていった。その後、神学を学ぶ機会を与えられ、ルター、カルヴァンから始まり神学書を読み進むなかで、罪について、神の救いの歴史について、聖書を貫く骨太の線、細く遠くにつながる線が引かれてきた。一度に引かれる線は一本だけでも、そこには喜びがある。聖書の神の愛を少しづつ教えられてきた。

テキストが引いて見せてくれる線はそれだけではない。人が騒ぎ私の心も空しく騒ぎ立つとき、先人の信仰の言葉が大切な軸をもう一度教えてくれる。「私は何ものなのか? 私は何ものであれ、あなたは私をご存じだ。: おお神よ!」(D・ボンヘッファー獄中詩、宮田光雄訳) 聖書の描く垂直の線に命生かされた人々の言葉が、私をもその線の下に引き入れてくれるのだ。

(しまだ ゆき 青山学院大学宗教主任・准教授)



## 民主主義を学ぶなら

# この三冊！

### 柳父 閑近

(やぎう・くにちか…東北大学名誉教授)

#### I

民主主義について考えるためには、まず杉田敦さんの『政治的思考』(岩波新書、二〇一三年)を手にとっていただくのが、なかなかいいのではないかと思います。第一章が「決定——決めることが重要なのか」。次が「代表——代表・なぜ・何のためにあるのか」。第三章が「討議——政治に正しさはあるのか」。つぎが「権力——どこからやってくるのか」と続き、第八章「距離——政治にどう向き合うのか」で終わっています。すべての章が、対話の

相手に著者が淡々と自分のとらえ方を語る形で書かれており、目次が示しているように、政治や権力についての疑問や反論を取り上げる中で、民主主義が浮き彫りになっていきます。よく考え抜かれた、それゆえに、わかりやすい文章で、市民のための「政治的思考」が(つまりは民主主義のための思考法が)案内されています。

#### II

宇野重規さんの『民主主義とは何か』(講談社現代新書、二〇二〇年)は、ある「市民アカデミー」でのセミナー

いるものに「マグナ・カルタ」。また商工業者で構成された中世都市の内部でも、上層身分による市政支配を民主化する下からの努力がかなり成功しました。こうした「中世立憲制」や、中世都市の中での民主化の歴史を継承しつつ、「近代」の立憲制や民主主義は出現したのでした。

第三章は「自由主義との結合」と題されています。一見、民主主義と自由主義は、手と手を取り合って来たように見えます。が、多数決で政策を決定すること、のみ急な「民主主義」であった、意見を異にする少数派の声が切り捨てられる可能性(↓結局は「多数の専制」に行き着く)が生じます。そこで少数派の声を十分に尊重する方法を講じる必要も生じます。後から見ると少数派の意見こそ、もっと良い「別の選択」を提示していたことが分かる場合もあるわけですから。また、宗教改革後を経験した後の近代西洋には、次第に個人の思想・信条の自由を尊重

しようとする「寛容」な「自由主義」が育ちました。この章ではこうした「自由主義」を組み込んだデモクラシーへの歩みが、すなわちロックやバンジャマン・コンスタンの、さらにはトクヴィルやJ・S・ミルの思索の意義が分かりやすく説明されています。(ただし、ルソーは、あくまで古代ポリスの民主主義をモデルに「社会契約論」を考えました。ロックらとルソーの民主主義観の重要な違いについて、この章は考えさせます。)

さらに第四章「民主主義の実現」では、まず二〇世紀の資本主義の発展と挫折、これに伴う大衆社会の出現と病理、ファッシズムや全体主義の出現を考察しています。さらに第二次大戦後のデモクラシーの再建が論じられています。著者はまず、第一次大戦後に、ウェーバーが「人民投票の大統領制」の必要性を論じ、またカール・シュミットが「民主主義は同質的社会にのみ相応しい」と論じたことが、結局は、

がもともになっっているということです。民主主義の思想史が、大変分かりやすく、と言ってレヴェルを下げることなく語られています。少し詳しく紹介してみましよう。

市民の討議による政治(デモクラシー)は古代のアテネで始まったとされますが、ではなぜアテネだったのか、本書の第一章「アテナイ民主主義」はその事情を説明し、またその「直接民主主義」の工夫を紹介しています。同時にいち早くアテネの「デモクラティア」にも現れた問題面、たとえば「ポリュリズム」なども取り上げられています。

第二章「ヨーロッパへの継承」は、アテネの民主主義が、共和制ローマと、ローマ帝国を介して中世ヨーロッパに継承された事情を語っています。西洋の封建制では、君主と封臣たちの間に契約的な関係が形成され、この契約のルールを君主側に遵守させる「中世立憲制」が作られました(よく知られて

「指導者」ヒトラーのもとで「異分子」を粛正したナチズムへの道を開いた面に注目しています。今またファッシズムの靴音が聞こえる中で、著者のこの指摘は不気味です。しかし著者はまた、こうした危うい政治学を乗り越えようとして来た二〇世紀後半のデモクラシー構想(シュンペーター、アーレント、ダール、ロールズなどの)を後半で積極的に紹介しています。

第五章は、「日本の民主主義」となっています。その上「民主主義の成立へ」では、近代化の遅れを「富国強兵」で取り戻そうとした明治の「天皇制国主義」と、その下でさえ出現した明治の政党政治や、吉野作造の「民本主義」の内容と意義を語っています。そしてそのすべてを封じ込めた「総力戦」(超国家主義)がなぜ日本で可能だったのかを分析しています。2の「戦後民主主義とは何か」では、日本の国家主義を解体し、「民主主義」を発展させる方法を追求した「丸山政治学」から、

国政選挙の投票率が五割前後、若者では三割に減った今日の政治意識の衰退にまで視野が広がる戦後史が語られています。歴史忘却を警告して、「過去を記憶することが、将来に備えることである」と説いた人がいました。この章を読むと、近代日本・そして戦後日本の「民主主義」の歴史を知っておく必要がよく分かります。

### III

中北浩爾さんの『現代日本の政党デモクラシー』（岩波新書、二〇二二年）は、戦後日本の政党政治の変遷を、一九九四年の衆議院選挙制度の変更を、かなめとしてまとめています。

衆議院選挙については、以前から自民党内などには、大政党に有利な「小選挙区制」化を望む声がありました。しかし五五年体制崩壊後の複雑多岐な政党の利害抗争に採まれるうちに結局——ドイツのように、死票を減らす比例代表制にもっと近づける「小選挙区比例代表制併用制」の構想もありまし

たが——「小選挙区・比例代表併立制」（↓現実には、小選挙区制としての性格を持ち、後年の法改正でそれがいつそう強まった）に決着しました。

この新たな選挙制度改革は、多数を得た党の政権に相当な期間の安定性を保証するとともに、次の総選挙による政権交代もまた生じ易くなる。日本もイギリスの二大政党型の政治に近づくと言われました。そしてこれまで霞が関の「官僚主導」で行われてきた日本の政治は、選挙を通じて作られる政権による「政治主導」の政治に変わるとも言われました。実際に二〇〇九年の衆院選で、自民党から民主党への政権交代が起きたことはかなり衝撃的でした。しかし民主党は急ごしらえの寄合所帯で、理念も曖昧なら「マニフェスト」も急ごしらえでした。このため、外交や内政にまずき支持を失いました。その後は、この新しい選挙制度を巧みに利用し（そして公明党の選挙協力にも支えられた）第二次安倍政権の

と異なる立場の人の現実認識を「フェイク」だと思ひ込む傾向も広がっています。トランプ大統領は反対派の主張をすべてフェイク（ニュース）だと主張して支持者を洗脳し、「岩盤支持者層」を確保しました。安倍政権も、一方ではアベノミックスの「余滴」という幻想を提供し、また「右よりのものの見方」を好む人々の支持を独特の「歴史観」の宣伝で固め、好機を捉えては低い投票率の総選挙を打って「圧

勝」とするという「妙手」を使い続けました。——宇野さんは、別著『（私）のデモクラシー』（岩波新書、二〇一〇年）では、いまや、「味方と敵」という硬直した考えを超える、「他者への理解」の努力が必要だと述べています。意識的な虚偽の主張でなければ、他者の意見への一定の「理解」を持つことは可能なはずである。われわれの将来は、こうした他者理解を踏まえたデイスカッションを大事にするデモク

「一強」体制が続きました。この体制の下で、憲法と民主主義は大きく削り、貫かれ、権力者の驕りも極まりました。同じ著者の『自公政権とは何か』（ちくま新書、二〇一九年）は、もっと近年まであつかっています。それだけにこの方が読みやすいかも知れません。ちなみに、中北さんのこの本を、憲法学者の長谷部恭男さんの『憲法と平和を問い直す』（ちくま新書、二〇〇四年）と併せて読まれると、眼前の日本の政治状況について、いろいろ思いめぐらされると思います。

### IV

それにしても、昔と違って、グローバルに人々の「ものの見方」ないし「ものの見え方」が多様化してきたことは、世界の民主主義に多くの変化をもたらしています。その中で日本人の価値観もある意味かなり多様化してきました。——ある価値観（感）にコミットした人が、その価値観（感）にとらわれた眼による「現実」認識に固執し、それ

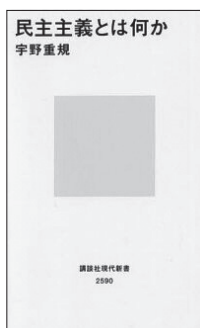
### 『政治的思考』

杉田 敦：著  
岩波書店  
2013 年刊  
新書判 224 頁  
880 円



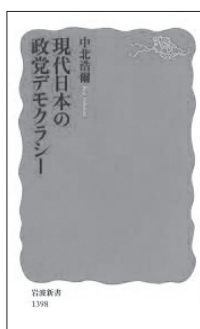
### 『民主主義とは何か』

宇野重規：著  
講談社  
2020 年刊  
新書判 280 頁  
1034 円



### 『現代日本の政党デモクラシー』

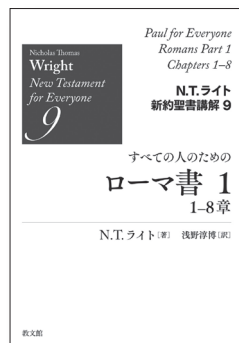
中北浩爾：著  
岩波書店  
2012 年  
新書判 172 頁  
880 円





# 聖書のメッセージを 現代に伝える待望のシリーズ

〈評者〉**鎌野直人**



N・T・ライト新約聖書講解9  
すべての人のための  
**ローマ書1**  
1―8章  
N・T・ライト著  
浅野淳博訳



N・T・ライトによる「すべての人のための新約聖書」シリーズ（二〇〇一年から）の翻訳出版がついに始まりました。その第一回配本が本書です。

このシリーズは、ペリコペゴとの著者の翻訳とその注解で構成されています。注解は導入的な逸話からはじまり、紀元一世紀の文化、社会、経済、神学的な背景を踏まえた注解のあとに現代への適用が短く記されています。特に注解の部分に二〇世紀後半の新約聖書学の実りを見ることができ、適用には教会人として英国国教会に仕えてきた著者の世界を見るセンスが表されています。巻末には、本文中にゴシック体で強調されていた用語の短い解説がまとめられており、新約聖書全体に共通した背景を見渡す新約聖書神学入門となっています。

ライトは、ローマ書は「福音」を中心に展開していると

理解しています。福音は、カエサルとは異なった王が世界の真の王となったという知らせであって、神の力です。これを聞く人に、十字架に架かって死に、神がよみがえらせたイエスを主と認めさせ、福音への確信である信仰を与えるからです。この信仰こそが、神との正しい関係の構築、すなわち異邦人とユダヤ人からなる世界大の神の民となっていることのあるしです。

世界大の神の民の誕生という約束は、当初アブラハムに与えられました。律法とは、神がアブラハムの子孫に与えたもので、この世を罪と死から救いだすための手段でした。しかし、律法がその目的を果たせなかったため、神はイスラエルの代表であるメシア、神の子を世に遣わされたのです。さらに聖霊を送りました。人の心に働きかけ、信仰を生み出させ、いのちを与えるためです。

神の約束は最後の審判とも結びついています。神の民は、信仰のゆえに今、メシアと苦しみとともにしますが、終わりの時には復活のからだを与えられて、彼とともに被造物を支配する栄光に入る約束が与えられています。そして、聖霊が最終的な判決の保証です。

このように、ライトは全被造物を回復する神の約束という大きな物語の中に神の民イスラエルと神が遣わしたメシアと神の霊を位置づけています。そして、福音には現在と将来が約束されているからこそ、福音は契約に対する誠実を表す神の義だと主張しています。

ライトの提案は、従来のローマ書理解に対して様々な改

訂を求めるものです。その一方で、旧約聖書来の伝統の中でローマ書を読み直す新鮮な視点を提供しています。特に後者を評者は歓迎しています。

ライトの著書の翻訳は簡単なものではありません。その中で、浅野氏は「すべての人のための」の注解書にふさわしい、平易なことばで、忠実に翻訳をしています。ただし、いくつかの訳語（三二頁「反語」、三六頁「動機が据えられている」、九六頁「身体的」など）や指示語（二一八頁「それは」など）には検討の余地があるでしょう。

（かまの・なおと＝関西聖書神学校校長）  
（四六判・二二四頁・定価二五三〇円・教文館）

感染大国アメリカの  
医療現場で最前線に立つ  
病院聖職者チャブレンの  
激闘の記録



# ひとりで死なせはしない

日本人牧師、アメリカでコロナ患者を看取る 関野和寛

型破りな牧師として知られる著者の次の挑戦は病院聖職者、チャブレン。2020年夏に渡米し、ミネアポリスの病院でコロナ病棟を中心に働く。絶望する患者に寄り添い、時にその最期を看取り、家族もケアする日々の奮戦記。著者が最強と称する、12人に及ぶチャブレンチームでの交流も描く。

四六判 並製・128頁・定価1430円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》  
<https://bp-uccj.jp>

# 共に苦しみつつ励ます 良き友となる一書

〔評者〕高橋貞二郎



聖書に聴く  
「人生の苦難と希望」  
船本弘毅  
Funamoto Hiroki

聖書に聴く  
「人生の苦難と希望」  
船本弘毅著



人生で苦難を避けて通ることはできない。本書は、苦難に悩み、悲しむ全ての人に贈られた聖書講話集である。読者は、どのような時にも自分に注がれる神の愛のまなざしに気付き、変わることに希望と平安に満たされることだろう。

著者は、神学者にして教育者、牧師であられた船本弘毅先生である。船本先生は、二〇一〇年六月から日本キリスト教文化協会の連続講演会をご担当された。これらの講話は、既に『水平から垂直へ——今を生きるわたしたちと聖書』『聖書に聴く「生と死」』として刊行されているが、今回は、三冊目の講話集となる。本書には二〇一六年五月・二〇一八年七月に行われた九つの講話（旧約聖書から四回、新約聖書から五回。一〇回目の要旨は「あとがきに代えて」に収録）が収められている。

談などを語ることで、読者を自然と聖書の世界へ導いていく。その上で、聖句を分かりやすく、的確に解説する。また解説の中では、マザー・テレサやデイトリヒ・ボンヘッファー、石川啄木などの言葉も紹介し、それらが聖書の時代と現代との懸け橋となり、聖書の言葉が今を生きる読者へのメッセージとなっていく。

特記すべきことは、著者が講演期間中にがんを患って、数回に及ぶ手術を受けられ、その苦難の中から講話をされたことである。それ故に、語られる言葉に重みがあり、説得力がある。最後となった第三四回目の講話では、愛唱讃美歌の一節が紹介される。それは「恐れは変わりて祈りとなり 嘆きは変わりて 歌となりぬ」（『聖歌』四九八番）

「人生の苦難と希望」というテーマで講話を始めるに当たり、著者は「聖書は人間のこの世の生が多くの苦難に満ちていることを直視しながら、ただそのことを否定的に、宿命的に捉えるのではなく、むしろ積極的にすべてを受けとめ、そこに神のみ旨を問おうとしているところに特色がある」（二四頁）と述べる。そして「困苦にあひたりしは我によりきことなり 此によりて我なんぢの律法をまなびえたり」（詩編一九編七一節、文語訳）や「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」というローマの信徒への手紙五章の聖句を引用し、それらを前提、土台として話を展開していく。

聖書講話なので、それぞれの回ごとに主題となる聖句があるのだが、著者はすぐに聖句の解説には入らない。導入部分で、その時々話題となっていたことや、自分の体験である。著者が目指した生き方の一つを示した歌詞であろう。この講話をされた一か月後、著者は天に召される。そのような苦難の中で、聖書を語り、祈り、讃美し、信仰による希望を伝え続けた著者に尊敬の念を抱かざるを得ない。「苦難を避けられない、わたしたち人間です。年齢と共に、思いがけないことがわたしたちを苦しめます。しかし、復活の主がわたしたちへの愛のまなざしを注ぎたもうことを信じ、生きていきたいものです」（二二二頁）という著者の言葉が、心に響く。本当にその通りだと思う。一人でも多くの方に読んでいただきたい一冊である。

（たかはし・ていじろう＝東洋英和女学院副院長  
（四六判・二二〇頁・定価一九八〇円・教文館）



三訂版

## ウェストミンスター 信仰規準

松谷好明＊訳

MATSUTANI Yoshiaki



ウェストミンスター信仰告白が、ラームスの〈二分法〉によって構成されていることを鮮やかに浮かび上がらせる！最新のクリティカル・テキストを用い、新機軸を打ち出した決定版。

四六判

定価 2,420 [本体 2,200 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-135-9



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

## 異郷との出会い

〈評者〉柴崎 聰



十四歳からの  
読書ナビ

小原 信

十四歳からの読書ナビ  
小原 信著



古来、人間が幼年から成年へ脱皮していく転機は、十二歳である。円の十二進法による一回転が、その推進力となる。イエスがエルサレムに神殿詣でをしたのが十二歳、オスカー・ワイルドの童話『王女の誕生日』の王女が十二歳、椎名麟三の『懲役人の告発』の主人公福子が十二歳、遠藤周作がカトリックの洗礼を受けたのが十二歳である。

本書は、「十四歳からの」「読書ナビ」と命名されている。著者が十四歳の春、田舎の中学校に宣教師R・シェラーさんが訪ねてきたことが起点になる。アメリカという夢のような異郷が、近づいてきたのである。そこから七十年に及ぶ読書の旅が始まり、今もその旅の途上にある。

幼年時代の経験を「心からわかるまでには、ある一定の期間が必要です。そのためには、14歳という年齢くらいまでは準備期間として必要でしょう」（六二頁）と著者は言う。

醒の瞬間です」（四三頁）。物事のコアに迫る箴言が堂々と屹立している。

Ⅱ みつける 「見ることには、理解し判断できるための素養や時間が必要です」（一五三頁）、「多くの真理は、いまも凍結したままです。わたしたちのまわりには無数の真理が伏在しています」（一五八頁）。一度目の読書では気づけなかったことが、再読では真理の透明度の深さに吃驚することがある。

Ⅲ うけとる 「ひととは死という現象をめぐって、実存のもつとも奥深いところにある、絶対的な自由ということに直面するはめにおちいります」（二九四頁）。本書においては、時に倫理性の高い警句に出会う。読み手はそこでとまどい、おのれの思索の浅さを反省しながら、再び進むこ

その後、東京で学び、アメリカ留学を経て、人生の陰影はいよいよ多彩になり、彫り込みは健やかに深まっていったのである。そこには常に「ときめき」が同伴していた。

「読書ナビ」と銘打たれていても、西洋古典、聖書、讃美歌、短詩型文学、小説、ファンタジー、戯曲、思想書、絵画、漫画から映画や名文句（アフォリズム）に至る驚くべき広範囲の作品がその対象になっている。プロローグとエピローグに挟まれて、ⅠからⅣのプロックに分けられ、「ゆめみる」「みつける」「うけとる」「つたえる」という動詞の見出しが選ばれ、作品を有機的かつ動的に捉えようとしている。

Ⅰ ゆめみる 「ときめきを感じる者は、じぶんの人格を発達させ、自立した人間として成熟していきます」（一四頁）、「出会いとは、ある日あるとき、わたしに起きる覚

とになる。

Ⅳ つたえる 「思い出すとは受け取り直すこと」（三〇六頁）、「幼年とは、もはや幼児でなくなった者が、ふりむいて気づくもの、ふりむいて初めてみつかるもの」（三〇七頁）と著者は言う。イエスほど振り返り向いた人はいないし、他者のために自分の方向性を一八〇度回転させ、新しい発見と真理を伝えた人もいない。本書の最良のナビゲーターはイエスであろう。

十四歳は幼いが、巧まずして訪れた異郷との出会いによってこそ、著者の原記憶は復活し進展したのである。

（しばさき・さとし 大学講師、詩人）  
（四六判・四〇〇頁・定価二二〇〇円・教文館）

## ヨベルの新作・既刊案内

及川 信（京都正教会／長司祭）

### クリスマス小品集 みちびきの星



星に導かれて、人生を旅したくなる！  
現代人から失われたものの価値を改めて想起させる7つのクリスマス小作品。日本人の正教会司祭・アイコン画家による、美しい光輝に包まれたもうひとつの聖誕物語。  
四六判・二七六頁・一五四〇円

河野 勇一（日本バプテスト教会連合・緑キリスト教会 待望の刊行！）  
（名古屋市中区）宣教師、東海聖書神学塾教師

### 人はどこから来て、どこへ行くのか？ 《神のかたち》



神の啓示である聖書に基づく神学的人間論こそ、世界と人に関する「なぜ？」に明解に答えてくれる。この信頼と確信のもとに『神のかたち』とは何か？というライフワークに挑んだ、渾身の書。  
四六判上製・四〇〇頁・二二〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈（税込）



# 前2千年紀の 忘れられた帝国への案内

〈評者〉石川 立



ヒッタイトの歴史と文化  
前2千年紀の  
忘れられた帝国への扉  
ビリー・ジョン・コリンズ著  
アダ・ダガー・コヘン日本語監修  
山本 孟訳



創世記二三章で妻サラを喪ったアブラハムは彼女の墓地を確保するために「ヘト人」と交渉している。創世記以外の書物にも見うけられる「ヘト人」とは一体どのような人々を指しているのだろうか。聖書時代の周辺にヘト人を歴史的に確認することはできない。聖書の視点からは、ヘト人は霧の中にあつて姿が見えてこないものである。

本書『ヒッタイトの歴史と文化』（原題：The Hittites and their world, 2007）は聖書の視点から離れて、ヘト人すなわちヒッタイト人に直接目を向け、その歴史や社会、文化の全体像を詳細に紹介してくれる。著者ビリー・ジョン・コリンズは、一九八九年にイェール大学・近東言語文化学で博士号を取得したヒッタイト学の専門家である。

全体は五章に分かれる。第1章「ヒッタイト研究史の概観」では、ヒッタイトの遺跡の発見とヒッタイト語の解読

に始まる研究の歴史が物語風につづられる。欧米の研究者は当初、ヒッタイト語がインド・ヨーロッパ語に属することを認めるのに逡巡したらしい。

本書の中心である第2章「ヒッタイトの政治史」では、古王国の勃興から帝国の成立、滅亡にいたる歴史が描かれる。ヒッタイトは後期青銅器時代に大帝國を築きあげ、その消滅後も数世紀にわたって近東地域の政治と経済に余波を残した。この章では、夫を亡くしたエジプト女王がヒッタイト王子との結婚を求める（前一二七〇年）逸話など興味尽きない物語が展開する。帝国消滅後に出現する新ヒッタイト諸都市は、帝国の影響下にあり続けたが、両者は必ずしも連続しているわけではないという。

第3章と第4章では主に帝国時代の社会と宗教について述べられる。当時のヒッタイトは中央集権下にありながら

多文化社会を形成し、他国の主権を認め、現地の宗教や社会の慣習を尊重し、個人の法的権利の公正かつ公平な扱いを保証していた。

最終章では聖書の中の「ヘテ人」について述べられる。それはカナン住民の一部を表す象徴的な呼び名のようにある。ヒッタイトと古代パレスチナ地域との接触については後期青銅器時代の帝国時代にさかのぼる。前十三世紀、帝国崩壊前に八十年近く続いた「ヒッタイトとエジプトの平和」の時代、アナトリアとレバント（パレスチナも含む）の間で、往来可能な国境に促され、多くの宗教・芸術・文学の交流があった。また、職人や訓練・教育を受けた専門的な人々の流れもあったであろう。このような交流によって、帝国支配の柱であったヒッタイトの条約は、神と古代

イスラエル人の契約の範になったと考えられる。

本書は信頼のおける基本的な情報を網羅している。情報は多いが、よくまとまっており、解説も丁寧である。門外漢にもヒッタイトの全体像を分かりやすく提供してくれる。古代オリエント学を志す者には最適の案内書と言えるし、すでにヒッタイト学に進んでいる者にとっても、従来の学的成果を整理した必読の概説書となるだろう。

最後に翻訳について。情報量の多い書物なので翻訳も容易ではなかったと察するが、誠実に正確な仕事だと見受けられる。アダ・タガー・コヘン教授の監修のもと、翻訳の労をとられた山本孟氏に感謝したい。

（いしかわ・りつ＝同志社大学神学部教授  
（A5判・三一八頁・定価三三〇〇円・リトン）

ヨベルの月刊 / 近刊案内

「ヨロップ」思想史

金子晴男

東西の霊性思想

大反響！

キリスト教と日本仏教との対話

西行や良寛を読む心が澄み渡り、法然や親鸞に信心は鼓舞される。ルターと親鸞はなぜ、かくも似ているのか。キリスト者が禅に共感するのにはなぜか。

多くのキリスト者を悩ませてきたこの難題に「霊性」という観点から相互理解と交流の可能性を探った渾身の書。

四六判上製・272頁・1980円（本体1800円＋税）

「ヨロップ」思想史

金子晴男

東西の霊性思想

大反響！

キリスト教と日本仏教との対話

西行や良寛を読む心が澄み渡り、法然や親鸞に信心は鼓舞される。ルターと親鸞はなぜ、かくも似ているのか。キリスト者が禅に共感するのにはなぜか。

多くのキリスト者を悩ませてきたこの難題に「霊性」という観点から相互理解と交流の可能性を探った渾身の書。

四六判上製・272頁・1980円（本体1800円＋税）

キリスト教思想史の諸時代 全7巻別巻2

「ヨロップ」精神の源流「既刊」

II「アウグスティヌスの思想世界」【既刊】

III「ヨーロッパ中世の思想家たち」【最新刊】

IV「エラスムスと教養世界」次回配本・編集集中

V「ルターの思索」【第五回配本】

VI「宗教改革と近代思想」【第六回配本】

VII「現代思想との対決」【第七回配本】

別巻I「アウグスティヌスの霊性思想」

別巻II「アウグスティヌス「三位一体論」の研究」

新書判・平均256頁

各巻1,320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F

TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

出版の手引き / 呈（税込）

# キリスト教的人間観のもつ 現代的意味

〈評者〉田中 裕



「原罪論」の形成と展開  
キリスト教思想における人間観  
上智大学中世思想研究所編



本書は中世哲学会の二年間にわたるシンポジウムと中世思想研究所の講演会の共同研究の成果をもとに編集された。近代科学の進歩に基づく楽天的な人間中心主義の時代において原罪論に含まれるキリスト教的人間理解がいかなる意味を持ちうるか―これが本書の執筆者達に共通する課題であらう。

宮本久雄による巻頭論文「樹の実の誘惑と根源悪」は原罪論を「根源悪」の問題として考察している。全体主義による人間の自由の疎外と抑圧をもたらす現代社会においてキリスト教的なヒューマニズムの視点を再確認する優れた論考といえよう。佐藤真基子論文「アウグスティヌスの楽園神話解釈に基づく人間観の形成」もまたアウグスティヌスに立返って原罪を論じ、嘘をつく行為のなかに、虚無へと誘われる人間の無意識の欲と、自己の内にある自己が

支配できない人間の内的なありかたを見ている。

津田謙治論文「靈魂伝移説と原罪」は、魂を物体として理解し幼児洗礼を拒絶したテルトゥリアヌスと、魂の物体性を否定し幼児洗礼の必要性を論じたアウグスティヌスを比較している。出村みや子論文「アウグスティヌスの原罪論におけるオリゲネス伝承の受容と変容」は、『罪の報いと赦し』におけるアウグスティヌスの原罪論を、「オリゲネスの聖書解釈の影響」とオリゲネス論争の進展の余波」という二つに焦点を合わせて論じている。

矢内義顕論文「十一―十二世紀における原罪論の展開」は、アウグスティヌスの伝統とアンセルムスの原罪理解の統合をトマススの原罪論に見ている。また、山口雅広論文「トマス・アキナスの原罪論」は、近代の啓蒙主義のヒューマニズムの楽天的な進歩史観に替わりうるキリスト教的な

ヒューマニズムの思想的基盤をトマス・アキナスに見ている。また辻内宣博論文「オッカムにおける道徳の理論」は、オッカムの主意主義的道徳論を論じ、「正しい理の上位原理としての神の命令への従属を、神愛を代表とする神学的な徳によって繋ぐ」ものであったと結論している。

山田望論文「ペラギウス派による原罪論批判の本質と女性観を巡る課題」は、ペラギウス派の神学を再評価している。「自発的決断をもって自立的に生きようとする女性キリスト者」を擁護する議論、神の恵みによる自発的決断によって人生を選択することにおいて、男女に優劣はないという現代人にとっても共感を得やすいキリスト教的な男女平等思想の先取りを見ている。

佐藤直子論文「ビンゲンのヒルデガルトにおける原罪論

の射程」は、女性神秘家ヒルデガルトの預言的な幻視書「スキヴィアス」のテキストを分析した貴重な労作で、ヒルデガルトが女性預言者としての役割を自覚する第二部に注目し、そこに彼女の独創性を見いだしている。

本書の最後におかれた鶴岡賀雄論文「原罪から栄光まで」は、十字架のヨハネの『霊の賛歌』を論じ、それを現在の「闇夜」の根底に遠い過去からすでに約束されていた将来の希望を先取的に示した「歌ものがたり」として読んでいる。時代の制約の下に古びてしまふ概念的な教義学の限界を超えて、根源的なヴィジョンに鼓舞された詩作／思索が時代を超えて現代人にも訴えかけてくることを読者は実感するであらう。

(たなか・ゆたか) 上智大学名誉教授  
(A5判・三五二頁・定価五五〇〇円・知泉書館)

## ヨブ記注解

並木浩一

国際基督教大学名誉教授

好評  
発売中

苦難と自由の本質に挑む、  
並木旧約学の集大成！



正しい人がなぜ苦しむのか。神はなぜ悪を許容するのか。ヨブ記は人間が自由を持つがゆえの苦悩を徹底して描く。思想世界に深く切り込み、ヨブと共に苦難の意味と人間の自由を問い直す勇気が与えられる注解書。A5判・482頁・定価6600円

本書はヨブ記の意味と意図について、最新にして最高の見解を提示します。ヨブ記に関心を持つ読者によって長く読みつがれる最良の注解書になるでしょう。



東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会牧師

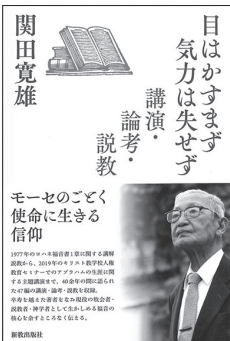
【購入者特典】先着300名様に『ヨブ記 並木浩一訳』冊子進呈  
本書のヨブ記翻訳をまとめた冊子をプレゼント。カバーについている応募マークを切り取り、はがきに貼ってご応募ください。

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)  
<https://bp-uccj.jp>

# 希望を捨てない九三歳の 現役牧師の集大成

〈評者〉 沢 知恵



目はかすまず  
気力は失せず  
講演・論考・説教  
関田寛雄著



一九二八年生まれの現役牧師、関田寛雄さんの最新刊は、牧会者、説教者、神学者、教育者、人権運動家として、生涯一貫して大切にしてきたことをまとめた集大成です。

書名は申命記三十四章から取ったもの。「モーセは死んだ時、百二十歳であったが、目はかすまず、気力は衰えていなかった。」（口語訳）

巻頭の「『老い』を生きたための黙想」は、関田さんが九十歳を過ぎて月刊誌『福音と世界』（新教出版社）に発表したのですが、みじんも「老い」を感じさせず、文章の初めから終わりまでみなぎる「気力」に圧倒されます。

三部から成る第一部は、長年携わってきた「キリスト教学校人権教育セミナー」での礼拝説教や講演です。〈経済優先、生産第一、能率重視、人間性無視、強者の勝利、そして差別の構造的な悪の状況〉の中で、ミッシヨンスクー

ルという〈現場〉でたたかう志ある教師たちと〈使命〉を共有し、連帯を促します。具体的な一人ひとりと〈関わり続けることが、ある意味で言葉を超えた言葉になっていく〉と自らの体験を語り、キリスト教学校のみならず、すべての教育の原点に〈人権教育〉を据えるべきであると訴えます。

第二部は、母校であり教鞭をとった青山学院大学の『神学科同窓会会報』などに寄せた文章です。学園紛争と学内の政治的理由により神学科が廃科になっても、卒業生に対する責任を負って定年までとどまった関田さんが、かたちを変えて「神学科」の精神を存続させたことがわかる愛情に満ちたメッセージです。

第三部は、関田さんの真骨頂である濃密な説教論とヨハネによる福音書第一章の講解説教です。「言の受肉」への

強いこだわりは、〈実存的信仰の共同体的展開〉なくして〈召命の課題に答える〉ことにならないと言い切る自戒をこめた痛烈な批判ともとれます。〈牧師は決して自己完結的になつてはなりません。自己の相対性と他者への開放性を身に付ける必要があります。〉光と闇、国家権力、血縁、死、あらゆるものを〈絶対化〉せず〈相対化〉することは、すべての人に生きるヒントを与えてくれるでしょう。

くり返し語られるエピソードに、読者は「またか」と思うかもしれません。川崎で在日コリアンの母子が夜中に駆け込んで来た話。在日大韓基督教川崎教会の李仁夏<sup>イ・インハ</sup>牧師の志を受け継ぎ、川崎市の「ヘイトスピーチ解消法」成立までたたかったこと。アメリカ留学時代にキング牧師からもらった手紙の返事と〈敵意をなくすには愛するしかないのだ。だから黒人たちよ、白人の兄弟姉妹を愛そうではないか〉という説教のことば。いずれも自身を変えさせられた

決定的な体験であったがゆえに、語り直されるたび、ジャズのテーマのごとく新鮮に感じられたのは私だけでしょくか。

〈土俵を割らない、対話をあきらめない、希望を捨てない。〉ちよつぱり過激な「小さな巨人」は、エールを送ります。〈イエス・キリストにある自由を希求する〉者はもちろんのこと、虚飾だらけのことばに空しさをおぼえるこの時代に、ノンクリスチャンにもぜひ出会ってほしい一冊です。

なお、本書はキリスト教書のみならず数多くの優れたブックデザインを手がけた桂川潤さんによる最後の作品となりました。ご家族、関係者のみなさまに主の慰めがありますようにお祈りします。

（さわ・ともえ〓歌手・日本基督教岡山教会員  
（四六判・三二〇頁・定価二二〇〇円・新教出版社）



# カルヴァンの教会論・ 職制理解を豊かに示す

〈評者〉飯田 仰

カルヴァン・新約聖書註解

Ⅻ テモテ・テトス・フィレモン書

堀江知己訳



新教出版社

新約聖書註解Ⅻ

テモテ・テトス・

フィレモン書

ジャン・カルヴァン著

堀江知己訳



カルヴァンの聖書註解が再び堀江知己師によって邦訳されたのは大変喜ばしいことである。堀江師は「歴史神学研究会」でお会いする度に、新たな翻訳の原稿を提示される。翻訳家・研究者として大変誠実なお方である。翻訳の速さは素晴らしい、まるで機械的に量産されるようである。その仕事量にはいつも驚かされる。そして今回の翻訳も読み易さにおいて卓越している。

この新約註解書はいわゆる牧会書簡を扱っているもので、カルヴァンの教会論及び職制理解が豊かに綴られている。教会形成とは何かについて考察する上で、極めて重要な内容であると言つてよい。特に改革派教会の伝統を汲む教会・教団においては、重要な一冊であると言える。

しかし、本書を読み進めていく内に意外性を感じる読者もいるかもしれない。訳者もあとがきで触れているように、

「カルヴァンは、長老、監督などといった概念を、極めて相対的かつ相關的に捉えて」（三三九頁）おり、後代の職制理解における名称の解説にはほとんど言及していない。非具体的な指導者概念として記していることに、読者は戸惑いさえ覚えるかもしれない。

本註解においても、常に聖書の御言葉に忠実であろうとするカルヴァンの真摯な思いが如実に表出されている。『キリスト教綱要』で展開していく神学的考察の基盤となる基礎工事のような役割を本書は担っている。カルヴァンの聖書理解と解釈、そして解説は、時代的な限界を感じる部分もあるとは言え、現代の我々に対しても多くの示唆を教示していると言えるだろう。

時代的な距離感を感じる部分として顕著に現れるのは、本書がテモテやテトスを扱っているためであると考えられ

る。女性教職に対する言及の部分に違和感を感じる読者もおられるだろう。一見、女性蔑視とも取られてしまうような表現は（五九、一一九頁など）、現代の我々にとって受け入れ難いものかもしれない。また、フィレモンで扱われる奴隷制度に対する言及においても、現代の我々とは到底関係のない問題として処理されてしまうかもしれない。しかし、訳者も述べているが、それが自らの罪深さを見ることにつながると捉えるならば（三三一頁）、本書の有益さを十分に感じ取ることに繋がるであろう。

カルヴァンの著作はどれをとっても大変驚愕させられることが多い。本書を通してその想いは依然として読者に残る。本書でもカルヴァンの古代教父理解の深遠は顕在である。周知の通り、カルヴァンは聖書に精通していただけでなく、古代教父の著作内容や教会史における異端についても熟知していた。その様子が本書を通して垣間見られ

る。特にクリュソストモスの引用とその解釈理解に対するカルヴァンの説明は、その豊富な知的蓄積の様子を物語っている。ただ、ほとんどクリュソストモスに賛同していない点は興味深い（七三頁は例外）。

また、カルヴァンが聖霊と聖霊の働きを非常に重視する点に研究者たちは以前から着目しているが、その点、本書の聖書に関する記述（二二六―二二七頁）などで読み解くことができるであろう。

本書を読み込むことによって、我々の心は更に鼓舞されると思う。そして教会形成を目指し、教会にて御言葉を語り続ける使命に益々駆り立てられるであろう。特に説教者たちに宝愛される一冊となることは間違いない。

（いいだ・あおぐ）日本同盟基督教団国外宣教総主事・東京神学大学博士後期課程在籍 歴史神学専攻

（A5判・三三八頁・定価六三八〇円（上製）／四七三〇円（並製）・新教出版社）



# 視野の広さと神の慈愛深さを 特長とする独自の霊性思想

〔評者〕 阿部仲麻呂



キリスト教思想史の  
諸時代Ⅲ  
ヨロップ中世の思想家たち  
金子晴勇著



本書は、視野の広さと慈愛深さを特長とする独自の霊性思想の集大成であると同時に他者に対して一番伝えたいことを明確にまとめた啓蒙書でもある。プロテスタントのキリスト教理解を深めた著者は決して狭い枠に安住することなく、幅広くギリシア古代古典文藝の伝統や古代カトリシズムの沃野にも踏み込んで学びを洗練させた。その客観性と開かれた対話の精神はおそらくエラスムスの寛容さを学ぶことによつて養われたのだろう。

アウグスティヌスからルターへ。その稀有な道行きをたどつてキリスト教思想史の奥深さを正確に描くのが、この新たなシリーズ本である。もちろん著者は古代ギリシアから現代に至る哲学思想史の流れをすべて踏まえたいうえでヨーロッパ文化の根底に潜む霊性の価値をえぐり出そうと試みている。その際の中核的な基軸がアウグスティヌスか

らルターへと至る人間の心の叫びなのである。人間の生き方を問う仕儀が心の在り様の描写に結びつく。

著者の『ヨーロッパの思想文化』（教文館一九九九年）において、すでに「霊性」の重要性が強調されていた。評者は二〇〇六年にオリエンズ宗教研究所の『福音宣教』誌上で「感性論」に関する連載記事を執筆したが、その際に著者の本から多大なる影響を受けた。たしかに金子は最近の本でも以下のように述べている。「ヨーロッパ思想史と人間学がわたしの研究分野であつて、青年時代から「理性」や「感性」と並んで「霊性＝信仰」に関心を寄せてきましたので……」（『わたしたちの信仰——その育成をめざして』ヨベル、二〇二〇年、二三三頁）。

本書の内容は全11項目から成る（中世ヨーロッパ社会の形成、エリウゲナの『自然の区分』、アンセルムスと「理性」とは、人間が自分の存在根拠に向かうことである。キリスト教的に言えば、誰にでも生まれつき備わっている神に向かつて開かれゆく性質のことである。ローマ・カトリック教会は、キリスト教以外の諸宗教の奥底に誠実で価値のある霊性が息づくことを認めた。そして諸宗教の内なる真実と善さを受け容れ、彼らに触発されて、キリストの真実に磨きをかけ、救いが成就することを望む。金子の諸著作にも同様の望みがみなぎる。彼は日本における霊性的な深みの次元で生きつつもキリストの道の歴史的な展開を理解するために特にヨーロッパに焦点を定めた。徒に西洋に埋没することなく、アジアの生活文化を背景にした霊性的次元に根差して西洋思想史を眺め直すという、意欲的で新鮮な試みは世界的に見ても稀有で先駆的な業績である。

（あべ・なかもろ＝東京カトリック神学院教授、日本カトリック神学会理事）

（新書・二七二頁・定価一三三〇円・ヨベル）

解を求める信仰」、ベルナルの神秘主義、女性神秘家の特質、聖フランチェスコとボナヴェントゥラ、トマス・アキナスの神学体系、ヨーロッパ的な愛とダンテ、ドイツ神秘主義の系譜、新しい敬虔の運動、オッカム主義の伝統とその破綻）。そして、各項のあいまに11の「談話室」が配されている（ビレンヌ、騎士道、神の存在証明、観想と活動、ベギン運動、修道院文化、ボナヴェントゥラとトマス、霊性の詩人、エックハルト、ジェルソン、パラダイムの転換）。神を求めて心を整える人間の姿の歴史的経緯を明快に整理して平易に叙述する著者の手腕は熟達した原典研究に根差す。

ところでローマ・カトリック教会の教皇聖ヨハネ・パウロ2世はアジアの霊性を価値あるものとして理解した。「アジアは霊的なものを重んじ、深い宗教感覚を生得的に備えている地域です。このアジアの価値ある霊的遺産を人類に共通するものとして大切にしなければなりません」(Jordan Aumann, *Asian Religious Traditions and Christianity*, The Faculty of Theology University of Santo Tomas, Manila,

| 書店名             | 郵便番号     | 住所                     | 電話           | ファックス        | URL                                            | メール                               | 郵便振替           |
|-----------------|----------|------------------------|--------------|--------------|------------------------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| 北海道キリスト教書店      | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目           | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jp-shop.com                         | sasaki@jp-shop.com                | 02770-2-56520  |
| 善隣館書店           | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37          | 019-654-1216 | 共用           |                                                | zenritkan_syoten_0530@yahoo.co.jp | 02350-0-874    |
| 仙台キリスト教書店       | 980-0012 | 仙台青葉区1-36 靱帯センター・イワフ   | 022-223-2736 | 共用           |                                                | fqcwk5244@ybb.ne.jp               | 02230-0-31152  |
| 恵泉書房            | 260-0021 | 千葉市中区新館2-2 千葉カリアセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | http://www.keisen.christian.jp                 | keisen@vestia.ocn.ne.jp           | 00120-9-43619  |
| 教文館             | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1          | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.avaco.info                          | xbooks@kyobunkwan.co.jp           | 00120-2-11357  |
| アバコ・ブックセンター     | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18       | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | http://www.taishindo-books.jimbo.com/          | avaco@avaco.info                  | 00130-0-96398  |
| 待農堂             | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1        | 03-3333-5778 | 共用           | http://biblehouse.jp                           | taishindo@bible.or.jp             | 00110-8-95827  |
| バイブルハウス南青山      | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1          | 03-3567-1995 | 03-3567-4435 | http://www.biblehouse.jp                       | biblehouse@bible.or.jp            | 00160-2-18410  |
| 横浜キリスト教書店       | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96           | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www.dugite.ne.jp/~yokohamais/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp           | 00250-4-2512   |
| 清光書店            | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313           | 025-229-0656 | 共用           |                                                |                                   | 00560-8-51419  |
| 静岡聖文舎           | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26         | 054-260-6644 | 054-260-5612 | http://www.s-seibun.co.jp/                     | info@s-seibun.co.jp               | 00810-8-26558  |
| 名古屋聖文舎          | 464-0850 | 名古屋市中区今池5-28-4         | 052-741-2416 | 052-733-2648 | http://nagoya-seibunsha.la.coocan.jp/          | nagoya-seibunsha@nifty.com        | 00810-5-14073  |
| 京都ヨルダン社         | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル       | 075-211-6675 | 075-211-2834 | http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kjordan/    | kjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp     | 01010-2-594    |
| 大阪キリスト教書店       | 530-0013 | 大阪市北区茶屋町2-30           | 06-6377-6026 | 06-6377-6027 | http://osakacds.web.fc2.com/                   | ochrbook@river.ocn.ne.jp          | 00990-3-43009  |
| バイブルハウスびるすの森    | 591-8041 | 堺市北区東雲東町1-1-16         | 072-257-0909 | 072-253-6132 |                                                | sakai-jbs@bible.or.jp             | 00160-2-18410  |
| 神戸キリスト教書店       | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F  | 078-331-7569 | 078-945-9388 |                                                | kobex@nikkihan.co.jp              | 00170-2-421390 |
| 広島聖文舎           | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7           | 082-208-0022 | 082-208-0177 |                                                | hseibun0951@yahoo.co.jp           | 01360-4-1958   |
| 松山キリスト教書店       | 790-0804 | 松山市中一丁目1-23            | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.godis.jp/matsuyama_1007/index.html  | sksch@dokidoki.ne.jp              | 01650-1-2120   |
| 北九州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上富野5-2-18       | 093-967-0321 | 共用           |                                                | kcbookcenter@bible.or.jp          | 01780-4-39965  |
| 新生館             | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7          | 092-712-6123 | 092-781-5484 | http://www.sinseikan.jp/                       | info@sinseikan.jp                 | 01750-5-10932  |
| キリスト教書店ハレルヤ     | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23           | 096-372-3503 | 共用           |                                                | k-haleruya@bible.or.jp            | 00160-2-18410  |

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局  
加藤常昭 説教黙想集（仮題） 加藤常昭著

ドイツ告白教会の戦いの中から生まれた説教黙想運動。ポレンと出会い、長年日本の説教者を指導してきた著者が、黙想誌に半世紀近く寄稿した説教黙想の集大成。  
A 5判・608頁・予価8580円

新約聖書おもしろクイズドリル 辻 学監修

○クイズ、四択クイズなど、300問以上のクイズによって、新約聖書を楽しむ学べる一冊。いろいろなクイズを解きながら、目指せ聖書博士！  
A 5判・96頁・定価1100円

## ■教文館

N・T・ライト新約聖書講解1

すべての人のためのマタイ福音書1 115頁

N・T・ライト著 大宮 謙訳

「メシア」「王」「教師」「人の子」など、多彩で豊かなイエス像を描いたマタイが伝えようとしたメッセージとは何か？ 説教黙想・聖書研究・デポジションに最適な一冊！  
四六判・336頁・定価3080円

ウィリアムス神学館叢書V

今さら聞けない!? キリスト教

聖公会の歴史と教理編

岩城 聰著

アングリカニズムの歴史と基礎的な考え方、現代において世界の聖公会が直面する諸課題を、豊富な図版とともにまとめた、聖公会の「今」を知るための最新・最良の手引き！  
A 5判・220頁・価格未定

## INFORMATION

### 近刊情報

■新教出版社  
ヴェーバーとフランクリン

—— 神と富と公共善

梅津順一著

ヴェーバーが「資本主義の精神」を体现する人物として紹介したベンジャミン・フランクリン。その思想と行動を綿密に分析し、『プロ倫』の記述を検証する。フランクリン自身の宗教観と社会観が鮮明に浮かび上がり、同時に近代社会の形成に果たした宗教の役割が明らかとなる。  
四六判・472頁・予価4950円

古代末期・東方キリスト教論集

戸田 聡著

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる論考を含む27編を収録。  
A 5判・392頁・予価5500円

■キリスト新聞社

読める、わかる、聖書のストーリー

竹ヶ原政輝著

天地創造からイスラエル王国の盛衰、そしてキリストの十字架と復活、そして教会の誕生……聖書のグランドストーリーを、わかりやすく物語るとともに、第二部では、聖書の各書簡も簡潔丁寧に解説。聖書を開きたくなる工夫が詰まった一冊。  
A 5判・288頁・定価2200円

# 福音と世界

2021年11月号

特集 黒人神学との再会

寄稿者 山下壮起、マニエル・ヤン

榎本空、阿部啓、リンダ・E・トマス

好評連載 アジアの草の根 平和の証し人 一歩、また一歩 (宇井志緒利)、霊性のエコロジ (村澤真保呂)、I Say a Little Prayer 開かれる世界 (栗田隆子)、福音のフラグメント (有住航)、古代イスラエル文学史序説 (勝村弘也)、新約釈義 第二テモテ書 (辻学) ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

## 編集室から

なっていたいでしょか。

近年の日本では民主主義の根本が危機を迎えているように思われてなりません (日本だけではないかもしれません)。今月号が刊行されるのは与党の総裁選が終わり、衆議院選挙を間近に控えた頃になるはずです。その意味では非常にタイムリーな特集になったのではないでしようか。近年の情勢の切れ味鋭い解説も交えて、非常にためになる本が紹介されています。まだの方は是非一読ください。

本誌「本のひろば」では、月号冒

頭の2-5ページでテーマに応じた

三冊の書籍を紹介した記事を掲載し

ています。今月は「民主主義を学ぶ

ならこの三冊!」と題した民主主義

についての特集です。既にお読みに

## 予告

本のひろば

2021年12月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ)「子どもたちへの言葉の力強さ」  
笹森田鶴、(書評)並木浩一著『ヨブ記注解』、長  
谷川修一著『遺跡が語る聖書の世界』、原田浩司  
著『スコットランド信仰告白』による信仰入門、  
ソーニャ・M・スチュワート著『イエスさまにつ  
いて行こう』、関野和寛著『天国なんてどこにも  
ないよ』、加藤常昭著『加藤常昭説教全集37 旧  
約聖書・福音書の説教』他

読書の秋です。大きな政治イベントを前に民主主義についておさらいをしておくのも一興かと。

今月号だけでなく、先月は「金と神」について、先々月は「原発問題」等々、各号重要な問題について識者がキリスト教的な知見を提供してくれています。重たいテーマだと敬遠された読者もおられるかもしれませんが、まだ本誌をお手元をお持ちでしたら読み返してみたいかがでしようか。きっと世界へのクリスチャンとしての視点を養う一助となってくれると思います。

(村上)

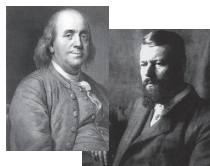
本誌の表紙も手掛けてくださった装丁家の桂川潤さんが、7月5日にお亡くなりになりました。これまでのお働きに感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。

# ヴェーバーとフランクリン

梅津順一著 神と富と公共善

10月24日

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で資本主義の精神の体現者となつた  
れたフランクリン。その生涯と思想を丹念に辿り、初期資本主義の担い手となつた  
人間像を明らかにし、現代資本主義を克服する道を探る。 ◆四六判・定価4950円



# 聖書と農 自然界の中の人の生き方を見直す

三浦永光著 (著者は津田塾大学名誉教授)

10月24日

私たちの社会はこのままでよいのか。神と被造世界との関係に思いを馳せ、  
聖書を読み直し、内村鑑三やジョン・スコットら信仰の先達に学びたい。今日のグローバル資本主  
義社会の先に見出すべき、聖書が示す「農」の思想とは。



◆四六判・定価1650円

# ユダよ、帰れ コロナの時代に聖書を読む

奥田知志著 待望の著者初の説教集、ついに！

9月24日

コロナ禍で鮮明となった、人間を孤立させ、希望をくじく社会に、著者は、聖書  
の深い読みと長年の実践に裏付けられた洞察をもつて、福音を大胆に対置する。  
著者の説教者としての面目躍如たる15編。

◆四六判・定価1980円



# アナキズムとキリスト教

ジャック・エリユール著 / 新教出版社編集部訳

9月24日

キリスト教に内在するアナキーなポテンシャルを覚醒させ、組織宗教の権威  
主義や国家を追認する聖書理解に反駁し、信仰とアナキズムの出会いべき地点を開示する。 技術社  
会批判で知られるフランス・プロテスタント思想家の晩年の最重要著作。

◆四六判・定価2750円



## ローマの信徒への手紙 下巻

原口尚彰著 下巻は9章から。上巻は既刊。 ◆A5判・上下巻とも定価5060円

## 遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一著 モノから見えてくる古代の社会と生活。 ◆四六判・定価2310円

大反響



本  
の  
ひ  
ろ  
ば

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇二一年一月一日発行 毎月一回（日発行）  
第七十七号 二〇二一年十一月号

発行所 発行人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷株式会社  
〒163-0614 東京都新宿区新小川町九一ー 電話〇三・三三六・五二一〇 振替〇一七〇・五一一六七九  
日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三・三三六・五二一〇

定価七八円（税抜七一円）（〒63円）  
一年分一三〇〇円（送料共）

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457  
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ https://bp-uccj.jp 《価格10%税込》

# 三浦綾子 祈りのことば

三浦綾子 ことば おちあいまちこ 写真 林あまり 解説

2021年10月25日刊行予定



1991年発行の『祈りの風景』から祈りのことば31編を精選し、新たにおちあいまちこの写真を添えたコラボ作。三浦綾子の祈りのことばが美しい草花の写真と響き合い、新しい輝きを放つ。2022年4月の生誕100年を記念して。

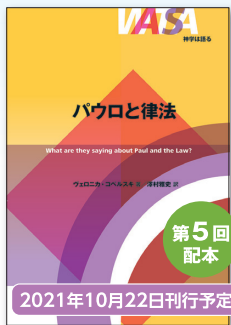
◆A5判変型 並製・80頁・定価1,320円

## 神学は語る パウロと律法

ヴェロニカ・コペルスキ 澤村雅史 訳

◆A5判 並製・190頁・定価3740円

パウロは「律法」に対してどのような姿勢をとっていたのか。20世紀終盤に大きく転換した「パウロの律法観」理解。今なお続く議論を概観。



2021年10月22日刊行予定

好評発売中  
シリーズ

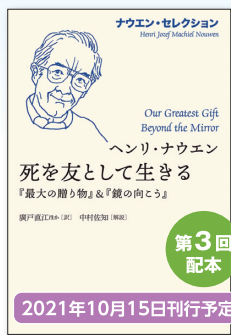
『聖書とキリスト教倫理』定価2,640円  
『新約聖書と黙示』定価2,420円  
『たとえ話』定価2,860円  
『パウロの教会はどう理解されたか』定価2,640円

## ナウエン・セレクション 死を友として 生きる

ヘンリ・ナウエン  
廣戸直江ほか 訳  
中村佐知 解説

◆四六判 並製・192頁・定価2420円

聖書の視点で死とケアを考える『最大の贈り物』と、交通事故の経験を踏まえて死の意味を思いめぐらす『鏡の向こう』の2作を収録。



2021年10月15日刊行予定

好評発売中  
シリーズ

『今日のパン、明日の糧——暮らしにいのちを吹きこむ366のことば』定価2,640円  
『アダム——神の愛する子』定価2,200円